

協和産業

廃家電プラほぼ100%分別

合成樹脂の再生、成型加工などのなりサイクル化を提案し、事業電分離装置でさらに分離。

を手掛ける協和産業（鴻巣市、安藤太郎社長）は、廃家電の混合プラスチックをほぼ100%の純度で分別するシステムを構築した。別・分離要素機器により樹脂を高純度で取り出すことを可能とした。同システムは風力、比重、静電気を、摩擦などの技術を利用した選別・分離要素機器により樹脂を高純度で取り出すことを可能とした。

リサイクルが本格的に進んでいない。同システムにより廃家電の混合プラの分別から成型品まで総合する。同じ比重のプラスチックは静

電分離装置でさらに分離。

静電分離後に摩擦分離装置によりケーブルやシリコン系ゴムなどを分離する。各種の装置によりポリスチレン（PS）やアクリロニトリル・ブタジエン・スチレン（ABS）樹脂とゴム類、ケーブルなどを分別する。

同社は食品・飲料メーカーのコンテナやケース、自動車バンパーのリサイクル事業も展開している。独自に開発した洗浄粉碎装置などにより高品質のリサイクル材を生産。自社工場と協力工場を合わせて全国に14カ所の拠点を

を持ち製品を回収し展開している。再生後にも品質の高い製品となるように、製品化前の企画段階からメーカーと協力している。「再生品にするにはコストがかかる。高付加価値製品への採用が一つのかぎを握っている。製品化前からリサイクルを視野に入れた総合的な提案をしていきたい」（安藤社長）としている。

物流資材と自動車向けリサイクルに、新たに廃家電向けを開始し再資源化事業を拡大する。

高付加価値の技術やサービスを持つ埼玉の企業を紹介していきます。

（秋谷明宣）

毎日 埼玉企業100

（随時掲載）